

見直し必要な水田農業

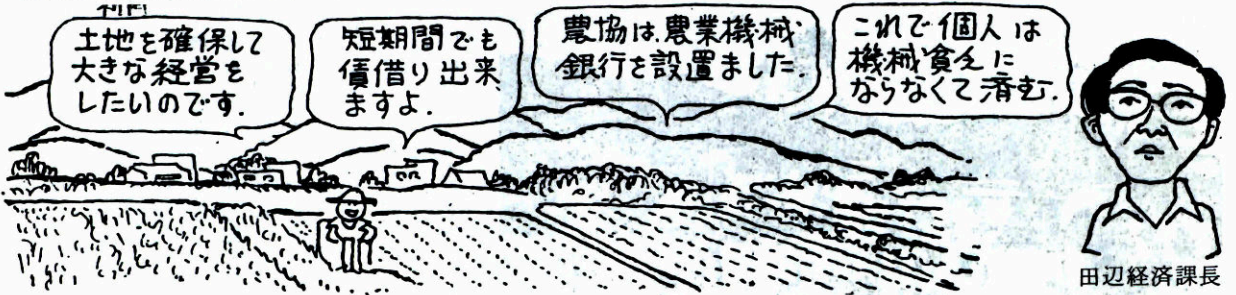
農家は農地と農業をどう考えていますか グラフで見る今後の農用地流動化傾向

—新農振アンケート調査から—



木村町長

農用地利用増進法を利用して農業の発展をはかります。



田辺経済課長

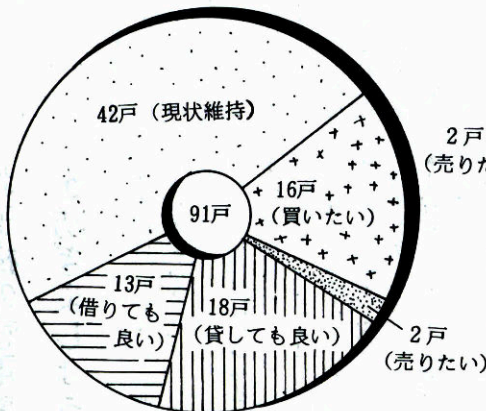
◆農家の農地保有に ついでに考えは

第一図は町内全農家のアンケート調査の中から第一宮農区、第七宮農区の農地保有について農家の考え方をまとめてみました。今日ほど農業のきびしさが身にしみることがないと思います。したがって農家の農業離れは激しさを加えています。しかし、この図に示されているように農地を現在のまま維持し農業生産を続けていきたいと希望する農家が第一宮農区では七〇%、第七宮農区では四六%と高い数字を出しております。またこのような考え方は第一、第七宮農区の間には格差があるように長門市に近い程低くなっています。次に規模を拡大したい人、つまり農地を借りたい人、買いたい人は第一宮農区で二二%、第七宮農区で三二%となっています。反対に貸したい、売りたい人は第一宮農区七%、第七宮農区で二%となり、長門市に近づくにつれて農外収入を主体として生活していきたいという考え方が強く出ています。この意向は農家の将来へ向けての願いであります。しかし、第

第 1 図

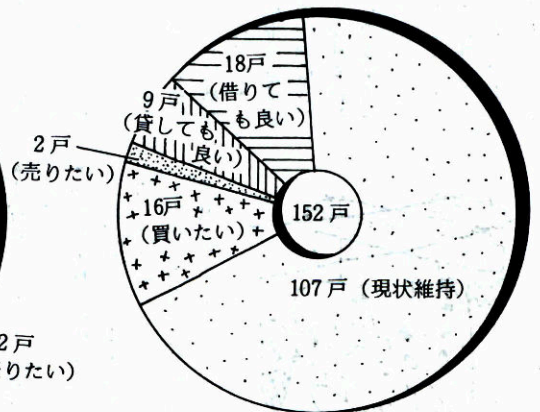
(2)

第7宮農区における今後5年間の農用地流動に対する希望調査



(1)

第1宮農区における今後5年間の農用地流動に対する希望調査



一、第二宮農区とも経営主の年齢を見ますと五一才以上の方が六八%という高い比率を示しています。今後五年、十年と年を経るに従って果して皆さんの願いが現実として可能なものになるか一人一人がもう一度考えてみようではあ

りませんか。

◆今後の農業の姿は
どうなるでしょうか

第二図を見て下さい。第一図と同じアンケート調査をグラフ化したものです。各農区とも「決めていない」が圧倒